

# ポーランド 写真の100年展

2006年7月25日[火]—8月27日[日]

主催/渋谷区立松濤美術館 ポーランド国立ウッチ美術館  
後援/ポーランド共和国大使館  
協力/日本通運  
企画協力/株式会社イデップ

XX Wiek w Fotografii Polskiej z Kolekcji Muzeum Sztuki w Łodzi



《毛皮の帽子をかぶったSt. I. ヴィトキエヴィチ》より ユゼフ・クウォゴフスキ&スタニスワフ・イグナツイ・ヴィトキエヴィチ c.1930

開館時間/9時~17時(入館は16時30分まで)  
休館日/7月31日(月)、8月7日(月)、14日(月)、21日(月)  
入館料/一般300(240)円 小中学生100(80)円 ( )内団体は10名以上  
60歳以上の方、障害者の方(付添1名を含む)は入館無料  
毎週土曜日は小中学生入館無料

講演会/ポーランド現代写真を語る 講師:塚原琢哉(写真家) 8月5日(土曜日)午後2時~

## 渋谷区立松濤美術館



ウィリニユス(ヴィルノ)眺望 ヤン・ブウハク 1912-16



逃走 アンジェイ・ワイダ 1950-51

ポーランド国立ウッチ美術館所蔵

# ポーランド写真の100年展

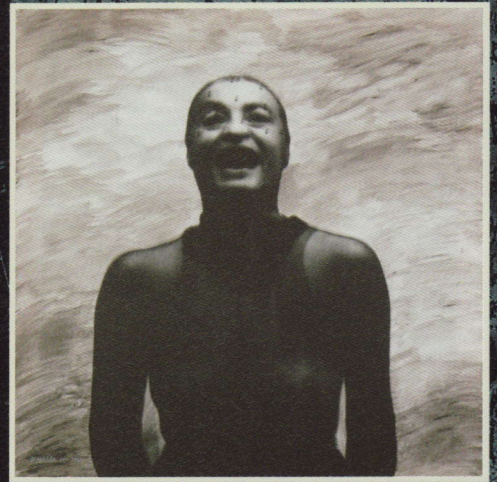
## XX Wiek w Fotografii Polskiej z Kolekcji Muzeum Sztuki w Łodzi



内なるポートレート ヴォイチェク・ブラジユモフスキ 1979



ヘリオグラフィカによる構成 (XV) - 空間の人  
カロル・ヒレル c.1932-34



恐慌 I ナタリア・LL 1988

日本で初めて、20世紀ポーランド写真の全体像を紹介いたします。

ポーランドは、ショパンを生んだ音楽の国、アンジェイ・ワイダ監督ら映画の国、演劇の国、ポスター等グラフィックデザインの国として知られています。しかし前衛美術運動が絶えず続けられてきたことは、意外に知られていないかもしれません。

長い分割時代を経て、第1次大戦後に独立を回復したポーランドでは、1910年代から前衛美術運動が開花し、ロシア、ドイツとの交流のなかで実験的な写真作品が数多く作られました。第二次大戦後は社会主義政権下にもかかわらず前衛的な美術活動が続けられ、1970年代にコンセプチュアル・アートと運動した先鋭的な写真制作が全盛となります。

一方で、アウシュビッツに代表される数多くの死、戦禍、さらに民主化をめぐる社会の変貌を記録してきた、ポーランドのドキュメンタリー写真が果たしてきた役割も重要です。そこには歴史の屈曲のなかで磨かれてきた独自の抵抗精神が読み取れるでしょう。

本展は、ポーランド第二の都市にある、国立ウッチ美術館所蔵の写真約3000点のなかから、ポーランドの歴史と文化をじかに伝える写真作品およびビデオ作品約180点を展覧し、その奥深い魅力を初めて紹介するものです。

### ●講演会 ポーランド現代写真を語る

8月5日(土) 午後2時～ 講師/塚原 琢哉(写真家)

○ギャラリートーク 7月28日(金)、8月4日(金) 午後2時～ 担当学芸員

○夏休み小中学生美術館見学会(渋谷区在住・在学の方対象) 8月3日(木)、8日(火) 午後2時～

#### 美術相談

7月29日(土) 午後2時～4時 講師 西嶋俊親(油彩画)/北尾和子(水彩画)  
8月27日(日) 午後2時～4時 講師 遠藤原三(油彩画)/新出紀久雄(水彩画)

#### 美術映画会

7月30日(日) 午後2時～ [New York Artists Video File 1]  
8月12日(日) 午後2時～ [New York Artists Video File 2]

次回展予告 石踊達哉展 9月12日(火)～10月15日(日)

## 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 ☎03-3465-9421  
<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>



(交通案内) JR渋谷駅下車 徒歩15分  
京王井の頭線神泉駅下車 徒歩5分